科目名	母性看護学概論	対象学年・時期	１年　後期
講師	専任教員	単位数・時間数	１単位　15時間
講義概要	ディプロマポリシー２に基づく。 生物学的女性は、子を体内に宿し、産むことができる唯一の性である。「産む」「産まない」に関わらず、身体は次世代を妊娠・出産するために成熟していき、ある年齢に達するとその機能は衰退していく。その過程で女性特有の身体的・精神的・社会的特徴や健康課題があらわれる。その過程において女性が自らの性の特徴を知り、自身の健康・権利を守り、自己決定し行動できることが重要であり、看護としてそれらを支えている。母性看護は女性の性と生殖を支え、次世代の健全な育成にも関与する看護学である。この科目では、母性看護学の基本となるリプロダクティブヘルス/ライツの考えを理解し、母性看護学に関わる生命倫理や、性とは何か、子が健全な成長発達を遂げるためには何が重要かを学生が思考し、母性看護学の意義や対象理解へつながる力を養う。		
講義形態	講義、グループワーク		
学習目標	１．母性看護の対象と意義が理解できる。 ２．性と生殖の健康/権利について考えられる。 ３．性と生殖における多様性について考えられる。 ４．命をめぐる倫理について考えられる。 ５．母性看護の対象を取り巻く環境について理解できる。 ６．次世代の健やかな成長・発達のために何が重要であるか考えられる。		
学習内容 (授業計画)	１．母性看護の世界へようこそ 　１）母性、父性、親性とは ２．性と生殖の健康とは ３．性と生殖の権利とは ４．性と生殖の多様性と命をめぐる倫理 ５．次世代の健やかな成長・発達のために ６．母性を取り巻く環境 　１）母子保健統計から見えてくるもの 　２）プレコンセプションケアとは		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　　概論・リプロダクティブヘルスと看護		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	解剖生理学や生物学で学習した女性生殖器、月経周期とホルモン、排卵・受精・着床・受精卵の細胞分裂等の知識を開講前に復習してください。事前学習・事後学習はその都度指示します。また、日頃から性や生殖、母子を取り巻く環境について、ニュース等の情報に意識を向けてください。		
評価基準と 評価方法	終講試験　５０点 レポート課題　５０点（ルーブリック評価）		
備考			